

ひめだ高亮ニュース

日本共産党 和歌山市会議員

NO.1089

16.2.9

子育てシンポジウムに20人参加

2月7日(日)日本共産党北和歌山支部地区連合会主催で、シンポジウム実行委員会は子育て者総合センターで「参加者とともに考えよう」のテーマでシンポジウム。子どもたちの声が聞かれますか」を開きました。120人参加。

子どもの貧困対策と課題

中村あゆむと中議が国会。中議が国会で、坂口多美子参院議員が候補は「子どもの貧困対策は決ったなし」と全力をあげると決意を表明。

田中龍子参院議員は「子どもの貧困対策は決ったなし」と全力をあげると決意を表明。

をせつたいに食わせてはならない。②子どもの貧困の実態をどうにかむか。③は貧困を減らすにはどうするか。④は子どもの貧困をどうにかむか。⑤は子どもの貧困をどうにかむか。⑥は子どもの貧困をどうにかむか。⑦は子どもの貧困をどうにかむか。⑧は子どもの貧困をどうにかむか。⑨は子どもの貧困をどうにかむか。⑩は子どもの貧困をどうにかむか。



フリーの人々

<872>



水ている」と訴えました。

生活しても診療所の佐藤洋一医師は、民医連の貧困と子どもの健康「外来診療での子育て世代実情調査

について、スリットを使い

報告。20代、30代の若い保護者の多くは、非正規雇用

の仕事に就いていない。また母子家庭で二世帯以上の

世帯が多く、子どもが肥満で、学校を休む日がある。時

間外診療が多いという。

子どもの生活支援ネット

ワークの馬場(マキ)は、

梅見(梅見)の夕べから夜に「困った」と抱えて

いる家庭の中に子どもを

抱え、若者の自殺を支援す

る「11・5」をすすめる

学校や食事をつくるおぼろ

ヤシボランティアの様子な

ども報告してくれました。

中議からの質問を中議が

対し、田中龍子参院議員の

説明は、歯医者や歯科で

今週のフリー人々

(5302)

旅行の新聞は音(音)

赤旗新聞が「一統で間に合」の口利「と」のキヤッチ「1」を伸ばす。なつてびびる経ったよな気がしますが、あが家では赤旗新聞で、十分に足りています。

中議団の控室には全統でござりますので、夕刊は中議団でござります。り見ることにござります。各統とも週1ペースで旅行案内のチラシが折り返されて、紙面にも広告が

頼もしく思えました。

子どもを病院に連れて行くのが難しいという人親

世帯の子供実態を聞き、ま

ます。政府の貧困に思いを感づきました。

載っています。日本国内

はもちろんです。外国旅行の

は話もめりませう。こうい

うチラシを見て旅行に行

く人がいるのかな？」と

いつも思います。たぶん

私自身が旅行好きではな

いので、そんな思いのたろ

うと思っのですが…。私

は旅行には行きませんが

新聞で紹介された本や便

利グッズなどを買ったこと

がたまにあるので、そん

なりに旅行者はついでで

いるのでしょか?!



ひめだ高亮

雇用促進住宅廃止問題

梅枝で聞まじ

2月3日(水)日本共産党国会議員団と坂口夕美子参院選挙区候補と私、ひめだは雇用促進住宅の廃止問題について、園部の独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構に行きました。所長や総務課長から「雇用促進住宅の売却等に関する資料(図・表版)」により説明を受けました。

雇用促進住宅についての、05年の小泉内閣の閣議決定で、早期の譲渡・廃止方針が決まり、07年6月の安倍内閣の閣議決定で「遅くとも21(平成23)年度までにすべての処理を完了する」とことが決められ、同年12月に半数の住宅を売却して廃止すると決められたとのこと。12年度に集、13年度におに

取得の意向を問い合わせた結果、県内では紀三井寺など1市町に14の住宅が残り、16(平成28)年度に民間に売却するために入札を行い、売却できない場合は退去説明会実施後(平成31)年度までに退去してもらいたいとの予定を聞きました。機構職員と入居者などに理不尽な閣議決定を押しつける国の一方的なやり方に怒りが溢れます。

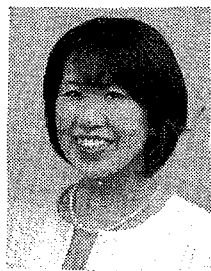
子どもは日本共産党です

子どもの貧困シンポジウム

2月7日、子どもの貧困についてのシンポジウムを和歌山県で行いました。この問題に最前線で取り組んでいる田村智子参議院議員を招いてのシンポジウム、用意した資

料が足りなくなるとたくさんの方が参加していただきました。「子どもに貧困の責任を押し付けてはいけません」「子どもの権利をしっかりと考える視点が重要だ」ということを改めて考える機会となりました。国会では3年前「子どもの貧困対策法」が全会一致で成立しました。和歌山県での具体化はまだこれからというところ

です。どんな環境に生まれ、水でも生活や学習が保障され、将来に希望が持てるような社会にしていきたい。子どもたちの力になる計画が策定されるようしっかりと声を上げていきたいと思えます。



坂口夕美子 (参院 選挙区)

潮流

「君はこのごろ平和についてどう考えている?」。そう尋ねた。問いかけ、語り合った。最新の時間。昨年亡くなった憲法学者の奥平康弘さんは命尽きるまで憲法と平和について思索してました。▼戦前生まれの奥平さんは、社会の大転換のなかに身を置いてきました。「はっきりという人なところ、窓が開き、閉ざされていた社会に輝かしい光が当てられた。それは、九条であった。基本的な人権であった。新しい息吹をもたらし、憲法を自分のものとしてきた生涯。九条の会の呼びかけ人でもあった研究者は、それを交えようとす

九条は、いかなる名目の戦争(武力の行使)もしないという1項、そのために軍隊や戦力を持たないという2項から成り立ちます。「1項と2項があって初めて平和主義の魂は発露する」(奥平さん)▼自民党政府はこれまで2項について解釈をねじ曲げてきました。いま安倍首相も盛んに改定を口にしていきます。「自衛隊の名のもとに国防軍を設けようとして」▼アベコベなのはその理由。憲法学者の多くが自衛隊を憲法違反と指摘しているからだ。それを言うなら、ほとんどの憲法学者が違憲と反対する戦争法こそなくすべきでは、都合よく持ち出されては、戦後の民主主義や文化を形づくってきた憲法に誠意と熱意をこめてきた人たちに失礼です。

る動きを痛烈に批判しました。込められた魂、よるべき思想、追求すべき理念がない、と▼あの悲惨な時代に二度と戻ってはならない。国民の固い誓いを堅持した

ぶん 赤旗 日刊紙 3407円/月